

令和4年度特別の教育課程の実施状況等について

静岡県		
学校名	管理機関名	設置者の別
静岡県立清水南高等学校中等部	静岡県教育委員会	公立

1. 学校における特別の教育課程の編成の方針等に関する情報

特別の教育課程の編成の方針等の公表 URL
<a href="http://www.shimizuminami.ed.jp/?page_id=39">http://www.shimizuminami.ed.jp/?page_id=39</a>

2. 学校における自己評価・学校関係者評価の結果公表に関する情報

項目	公表先
自己評価結果の公表 URL	<a href="http://www.shimizuminami.ed.jp/%E5%AD%A6%E6%A0%A1%E6%A6%82%E8%A6%81/%E5%AD%A6%E6%A0%A1%E8%87%AA%E5%B7%B1%E8%A9%95%E4%BE%A1/?action=common_download_main&amp;upload_id=12503">http://www.shimizuminami.ed.jp/%E5%AD%A6%E6%A0%A1%E6%A6%82%E8%A6%81/%E5%AD%A6%E6%A0%A1%E8%87%AA%E5%B7%B1%E8%A9%95%E4%BE%A1/?action=common_download_main&amp;upload_id=12503</a>
学校関係者評価結果の公表 URL	<a href="http://www.shimizuminami.ed.jp/%E5%AD%A6%E6%A0%A1%E6%A6%82%E8%A6%81/%E5%AD%A6%E6%A0%A1%E8%87%AA%E5%B7%B1%E8%A9%95%E4%BE%A1/?action=common_download_main&amp;upload_id=12504">http://www.shimizuminami.ed.jp/%E5%AD%A6%E6%A0%A1%E6%A6%82%E8%A6%81/%E5%AD%A6%E6%A0%A1%E8%87%AA%E5%B7%B1%E8%A9%95%E4%BE%A1/?action=common_download_main&amp;upload_id=12504</a>

3. 特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果

(1) 特別の教育課程編成・実施計画に基づく教育の実施状況

- ・計画通り実施できている
- ・一部、計画通り実施できていない
- ・ほとんど計画通り実施できていない

(2) 保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

- ・実施している
- ・実施していない

<特記事項>

特別の教育課程の実施状況や取組の様子等について、学校ウェブページ等を通じて、保護者及び地域住民に広く情報提供を行っている。また、清水南高等学校中等部独自の教科「表現」で学んだことを生かし、文化祭では合唱を、表現発表会ではダン

スやショークワイア、ミュージカル等の演目を披露している。文化祭は生徒と保護者を対象に、表現発表会は地域の方や小学生、保護者を対象にそれぞれ公開した。公開に当たっては、例年、地域住民など一般の方にもチラシ、ポスター、ウェブページを通じて広く広報するとともに、新型コロナウイルス感染症拡大防止の対策を講じながら開催した。

なお、受検生を対象とした学校説明会やオープンスクールにおいても、「表現」の授業や中等部生による学校紹介等を企画・実施している。

#### 4. 実施の効果及び課題

清水南高等学校中等部においては、「富士の如く端正に、橘の如く香りが高く」の校訓の下、「高い知性と豊かな感性・表現力を備え、国際化社会に貢献できる人物の育成」を教育目標に掲げている。令和4年度については、「学習指導要領に基づいた授業改善を進め、主体的に学習に取り組む態度の育成を図る。」「自己有用感を高めるとともに、教育相談体制を充実させ、心身ともに健康な生徒を育成する。」「学校行事、部活動等の充実を図るとともに、アカデミック・ハイスクールの取組を推進し、豊かな感性や表現力を育てる。」を重点目標として、日々の教育活動に取り組んできた。

令和4年度に掲げた重点目標のうち、「学校行事、部活動等の充実を図るとともに、アカデミック・ハイスクールの取組を推進し、豊かな感性や表現力を育てる。」ために、特別の教育課程において、独自の教科「表現」を設定している。その教科の目標として、「協調性、表現力、集中力が身に付けられるようにする。」を掲げて取り組み、80%の生徒がその目標に到達することができたと評価した。そのため、特別の教育課程を編成したことが、生徒の成長に寄与していることが分かる。

一方で、表現発表会の開催時期がテスト等の時期と近いことや、演技をよりよくするために改善すべき課題も見えてきたことから、生徒が「表現」の活動に集中しやすい環境調整を図ることが必要だと考えられる。

#### 5. 課題の改善のための取組の方向性

清水南高等学校中等部は、公立中高一貫教育校として6年間を通じて、今後も高い知性と豊かな感性・表現力を備えた、国際社会に貢献できる人物の育成に力を入れていく。そのために、特別の教育課程・独自の教科「表現」を通じて、自分と向き合い「新たな自分づくり」「積極的に関わり合い、友人との人間関係づくり」を学ぶ機会としての授業・活動につながるよう努めていく。その一つとして、「静岡舞台芸術センターSPAC (SHIZUOKA PERFORMING ARTS CENTER)」との連携・協力のもと、生徒がより興味・関心を高めた「表現」への取組を促していけるように計画を進めている。